

研 究 分 野	漁場環境	部名	磯根資源部
研 究 課 題 名	渚の環境実態調査		
予 算 区 分	国（１０／１０）		
実施年度・研究期間	H. 1 4 ～ H. 1 6		
担 当	（主）仲村俊毅 （副）桐原慎二		
協 力 ・ 分 担 関 係			

〈目的〉

渚（飛沫帯から水深数 m までの場所）の動植物相を調査し、その現況を把握するとともに、渚域の環境保全を図るための今後の基礎資料を得る。

〈試験研究方法〉

調査線 1 ラインについて、飛沫帯、潮間帯、水深 2m 以浅、水深 2～4m に区分し、潜水枠取りにより、水産動物や海藻（草）などの分布実態を調査する。

〈結果の概要・要約〉

平成 15 年度は、4～6 月に岩崎村から風間浦村にいたる 10 町村で調査を実施した。

〈主要成果の具体的データ〉

平成 15 年春の調査で、各地区で出現した動植物の種類数は下表のとおりである。

砂礫域では動物、植物ともに種類数は少ないこと、陸奥湾では動物種は外海域と変らないものの、植物種が少ない等の特徴がみられる。

表 平成 15 年春の調査 各地点出現動植物種類数

海 域	調 査 地 名	動 物	植 物
日本海	岩崎村沢辺（岩礁域）	36	25
日本海	深浦町田野沢（岩礁域）	40	36
日本海	車力村車力漁港（砂礫域）	22	14
日本海	小泊村下前（岩礁域）	42	43
津軽海峡	今別町高野崎（岩礁域）	41	36
陸奥湾	平内町大島（岩礁域）	42	29
陸奥湾	横浜町大豆田（転石、礫）	47	20
陸奥湾	川内町川内（岩礁域）	34	23
津軽海峡	佐井村佐井（岩礁域）	40	36
津軽海峡	風間浦村易国間（岩礁域）	45	38

〈今後の問題点〉

特になし。

〈次年度の具体的計画〉

東通村から階上町の 4 市町村において、春と秋に調査を行う。

〈結果の発表・活用状況等〉

調査で得られた水産動物や海藻（草）類について、現場での生息（生育）状況や標本の写真を作成、県のホームページに公表している。

ホームページアドレスは以下のとおり。

<http://www.pref.aomori.jp/suisan/news/toppage030423/index.htm>